

文／宗像幸彦 (p.12)、久ヶ澤和恵 (p.13)、青塚さおり (p.14)、柿野明子 (p.15) 写真／多田昌弘 (p.13・15) 写真提供／moonbase・amanaimages (p.8-9)、まちまち交流きこう (p.10-11)、キープ協会・白州郷牧場 (p.12)、石州いいやま観光局 (p.14) イラスト／ひろいまきこ (p.10-11)

グリーン・ツーリズムとは、農山漁村において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動です。近年、国内をはじめ海外からの旅行者のニーズは、その土地ならではの体験や地域の人との交流を楽しむ旅へと変わりつつあり、農山漁村への関心が高まっています。魅力あふれる農山漁村へ、みなさんこの夏、家族や仲間と、出かけてみませんか？

夏の旅

グリーン・ツーリズム

ずっと
行きたかった
あの場所へ

グリーン・ツーリズム 施設年間延べ宿泊者数



観光に関連した事業を実施している農業経営体

年度	平成17年 (A)	平成22年 (B)	対前比 (B/A) %
農家民宿	1,492	2,006	134%
農業レストラン	826	1,248	151%
育苗圃・体験農園など	4,023	5,840	145%
観光農園	7,579	8,768	116%

資料：農林水産省統計部「農業経営センサス」

都市と農村の 交流を総合的に推進

農山漁村においては、人口の減少・高齢化などに伴い、地域コミュニティや地域活力の低下がみられます。一方、消費者や都市住民の間では、付加価値の高い食料生産や観光、教育、福祉などへのニーズが高まり、また、地域の絆を重視する傾向が強まっています。このため、農林水産省では、集落が市町村、P・Oなど多様な主体と連携する集落連合体による、農山漁村の持つ豊かな自然や「食」を活用した子ども農山漁村の交流、地域資源の活用やボランティアを取り込んだグリーン・ツーリズムや農山漁村における大学・企業の研修などの「地域の手づくり活動」を推進することにより、グリーン・ツーリズムをはじめ、都市と農村の共生・対流を総合的に推進しています。

農山漁村でしたことがある活動と今後したい活動は？(複数回答)



農山漁村地域は日本にとって大切だと思う？



今後、農山漁村とどのような関わりを持ちたいと思う？





農産物直売所

朝採れ野菜や果物のほか
手作りの加工品がズバリ!

その日の朝に収穫した野菜や果物など、新鮮な農産物を手ごろな価格で購入できる施設です。農家の手作り味噌、漬物、ジャムなどの加工品から野菜まで豊富な商品が楽しめる店もあります。新鮮さと作り手の農家の顔が見える安心感で人気を得ています。



ココでしか 味わえない 魅力がいっぱい!

グリーン・ツーリズム

農家民宿

地元の人とふれあいがなら
農家の暮らしを体験!

農家が経営する宿泊施設で、自宅の一部を提供しているところでは、農家の暮らしをそのまま体験できます。農山村の風景に癒されながら、地元の人と語り合ったり、農作業や郷土料理作りなどの体験ができるのも魅力です。



体験施設

農業体験から加工体験まで
その道のプロに教わる!

田植えや稲刈り、野菜の収穫、牧場の乳搾りなどの農業体験ができるのももちろん、加工体験ができることも。バターやソーゼン作り、そば打ちなどのほか、ジャム作りやスイーツ作りができる施設もあり、女性客に人気です。



観光農園

果物狩りに牛ノコ押し
野菜の収穫体験も人気上々!

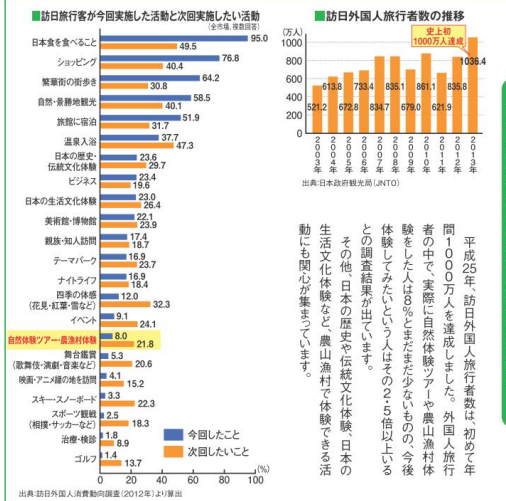
農産物の収穫ができる体験型の農園です。果物が世代を問わず人気ですが、サツマイモやアスパラガス、トマト、さらにはキノコの収穫体験ができる農園もあります。

農家レストラン



旬の新鮮な農産物が
たっぷり味わえる!

農家が自家生産した野菜や、地域でとれた農林水産物を調理して提供する飲食店のごです。伝統野菜や郷土料理を提供している店も多くあります。また、ハイキング形式の店も増え、家族連れに人気を集めています。



グリーン・ツーリズム関連サイト

- 一般財団法人 都市部農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流機構) <http://www.kouryu.or.jp/>
- オーライニッポン会連 <http://www.kouryu.or.jp/ohrai/>
- 農林漁業体験民宿、農家レストラン、農産物直売所 <http://kouryu.or.jp/g/mn/index.html>
- ふるさとふれあいプロジェクト <http://f-ouen.jp/>
- 親子で楽しめる「旅い」～子ども(3-12歳)の「生きる力の芽」を育てる。ホンモノ体験が満載! (東京JBCコーポレートセールス) <https://tabi-iku.jtbwvt.com/>
- 旅の発見 (株式会社アイゲート) <http://tabihatsu.jp/>
- どなりーな ~お気に入りの店を見つけよう~ (にまねる株式会社) <http://tomarina.com/>
- 自然体験・交流の旅「グリーン・エコー」(株式会社農信協) <http://ntour.jp/tour/shop/index.php>
- じゃらんnet (株式会社クラフトスタイル) <http://www.jalan.net/>

外国人旅行者も日本の農山漁村に興味津々!

平成25年、訪日外国人旅行者数は、初めて年間1,000万人を達成しました。外国人旅行者の中で、実際に自然体験ツアーや農山漁村体験をした人は、なんとまだ少ないものの、今後体験してみたいという人はその3倍に上るとの調査結果が出ています。

その他、日本の歴史や伝統文化体験、日本の生活文化体験など、農山漁村で体験できる活動にも関心が高まっています。



グリーン・ツーリズムとの関連では、廃校を交流拠点として、子どもたちに生き物が豊かな里山を活用した体験プログラムの提供や、魚料理、離島の漁村景観などの海の資源を活用した旅行商品の開発、都市と農山漁村の交流の実施するなど、消費資源を活用した様々な取り組みが行われています。このような取り組みの推進により、都市と農山漁村への交流の確保と所得の増大を図り、農山漁村の活性化や地域コミュニティの再生、さらには都市住民の農林漁業、農山漁村への理解の増進が期待されています。

農山漁村の魅力や観光分野と結び取り組みも!

農林水産省では、今年の6月に「農林水産業、地域の活力促進ツアー」を改訂。政策の展開方向として、人口減少社会における農山漁村の活性化の必要性が位置づけられ、都市と農山漁村の交流の推進にあたり、福祉、教育、観光との連携を強化することをすすめています。

このうち、教育との連携では、農林水産省、文部科学省、総務省が連携し、平成20年から「子どもと農山漁村交流プロジェクト」に取り組みされており、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進しています。

観光との連携では、農林水産省と観光庁との間で平成26年1月に「農観連携の推進協定」を締結。農山漁村の魅力や観光需要と結びつけるため、観光事業者と連携したグリーン・ツーリズムの取り組み、6次産業化による特産品の開発、地域ならではの食や森林を活用した観光の取り組みなどを推進しています。また、政府として2020年に訪日外国人旅行者数2,000万人の高みを目指していることを踏まえ、海外に向けて我が国の農山漁村の魅力発信、訪日外国人旅行者の農山漁村への誘致などを積極的に図っていくこととしています。